

## 愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略案 概要

## 目的

「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の総合戦略を勘案しつつ、「愛知県人口ビジョン」で示した将来展望や方向性の実現に向けた今後5か年（2015～2019年度）の基本目標や取り組む施策を提示。

## 1. 基本的な考え方

- 自然増・社会増両方を維持する愛知の強み（※）を生かし、人口の維持・増加を図る。
  - ※ {
    - ・日本屈指の産業集積を背景とした優れた雇用環境
    - ・大都市圏にありながらゆとりある住環境
    - ・三世代の同居・近居が多いなど、子育てにおいて親世帯からの支援が受けやすい環境 等
- 2027年度のリニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業を見据え、首都圏に対抗する強みを伸ばし、国内外から人を呼び込む求心力を強化する。
- 「多核連携型」の都市構造や多様な地域環境などの特性を生かし、県内のバランスある発展を図る。（三河山間地域等の人口減に歯止めをかける）

東京一極集中にストップをかけ、日本の活力を取り戻す核となる地域をめざす

⇒愛知の発展を担うのは「人」であり、誰もが愛知を舞台に活躍できる「人が輝く愛知」を実現

## 2. 重視すべき視点

今後5年間において、特に以下の4つの視点を重視して、施策の展開を図る。

## 視点1

## 産業を強くし、働く場をつくる

- モノづくりをはじめ、日本一の産業力をさらに強くすることで、働く場をつくり、人を呼び込み、また新たな産業・雇用を生む好循環を継続・加速
- 特に20～30歳代の女性人口が男性に比べて少ない中、女性の働きやすい職場環境づくりや産業分野を振興
- マーケットインの視点を持った経営や高い生産性により、競争力のある農林水産業を確立
- 次代のモノづくりを担う人材やグローバルに活躍できる人材を育成・確保

## 視点2

## 地域の魅力を磨き上げ、発信する

- 国内外から人を呼び込み、交流人口を拡大することで、地域を活性化し、新たな産業や雇用を創出
- 訪日観光客数が大幅に増加する中、観光を新たな戦略産業と位置づけ、より多くの人々が国内外から訪れる枠組みや仕掛けを構築
- 住環境はじめ首都圏にはない本県の魅力の発信や、大学等の活性化等により、若者層を中心に人の流入を促進

## 視点3

## 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 若者の経済的安定を図り、若者が経済的な不安から結婚や出産をためらう状況を解消
- 晩婚化・晩産化が進む中で、結婚を望む人へのサポートや、安心・安全な妊娠・出産を支援
- 共働き家庭が増加していく中で、ニーズが高まる保育、放課後児童対策の充実や、しごとと子育てが両立できるワーク・ライフ・バランスを推進

## 視点4

## 活力ある地域をつくり、バランスある発展をめざす

- 県内における地域活力の差の拡大が懸念される中、三河山間地域等の活性化を図り、移住・定住を促進
- 地域の持続的な発展のため、中心都市と周辺地域との連携や、県境を越えた広域エリアでの連携を強化
- 誰もが社会の支え手として活躍できるよう、高齢者、障害のある人などの就労や社会参加を促進
- 外国人集住地域における教育環境など、地域特有の課題に対する取組を支援

### 3. 基本目標と施策

4つの「重視すべき視点」を踏まえ、以下の6つの基本目標を設定し、具体的な施策・事業を提示する。

#### 基本目標① しごとづくり

日本の「産業首都」としての中枢性をさらに高め、質の高い「しごと」を創出する。

- 製造品出荷額等の全国シェア：14.5%  
(過去10年間の最高14.4%を上回り、全国1位を維持)
- 就業者数：年平均390万人以上  
(生産年齢人口が減少する中で、現状の水準を維持)

[施策]

- ◆燃料電池車など次世代自動車の普及や、国際戦略総合特区を活用した航空宇宙産業の振興、ロボット産業の振興
- ◆「知の拠点あいち」における研究開発、産学連携の推進
- ◆アジア等海外での販路開拓支援や、クラウドファンディングを活用する起業家等への支援
- ◆中小企業等の若手技能者等を対象とした実技指導や技能競技大会の開催など、モノづくり人材の育成
- ◆6次産業化の推進など農林水産業の競争力強化
- ◆産業競争力強化につながる政府関係機関の移転促進

等

#### 基本目標② 魅力づくり

“Heart” of Japan をキーワードに、本県の魅力を国内外に発信し、多くの人を訪れ、滞在してもらえる地域をつくる。

- 来県者数：5,000万人  
(現状3,817万人より約3割増)
- 観光消費額：1兆円  
(現状7,270億円より約4割増)

[施策]

- ◆産業観光、武将観光、食文化等の地域資源の磨き上げによる観光ブランドの構築や効果的な情報発信
- ◆伊勢志摩サミットに合わせた技術・産業や伝統・文化の発信
- ◆MICEの受入のための地域連携の強化や誘致活動の展開
- ◆「ラグビーワールドカップ2019」の開催支援や「フットサルワールドカップ2020」の招致などスポーツ大会の育成・招致
- ◆トリエンナーレの継続開催など文化芸術の創造発信
- ◆無線LAN環境など外国人観光客の受入体制の強化

等

#### 基本目標③ 人の流れづくり

若年者を中心とした東京圏への人口流出の流れに歯止めをかけ、国内外から愛知に人を呼び込む流れをつくる。

- 転出入者数：5年間で65,000人の転入超  
(過去20年の人口流入トレンドを継続)
- 労働力人口の全国シェア：6.2%  
(過去10年間の最高6.1%を上回る)

[施策]

- ◆「産業空洞化対策減税基金」の活用等による産業立地促進
- ◆産学官連携の強化等による大学の活性化
- ◆大学等と連携した県内企業への就職支援
- ◆移住希望者を支援する「地域しごと支援センター」の設置・運営
- ◆プロフェッショナル人材戦略拠点を設置し、中小企業等での人材活用を促進
- ◆技術系を中心とした留学生の受入や県内企業への就職支援

等

#### 基本目標④ 結婚・出産・子育て環境づくり

結婚の意思を持つ若者の希望をかなえ、夫婦が希望する時期に安心して出産、子育てができる環境をつくる。

- 合計特殊出生率：1.8〔2030年〕  
(結婚、出産、子育てに関する県民の希望をかなえ、希望出生率を実現)
- 女性(25~44歳)の労働力率：73.1%以上  
(過去10年間の最高値70.1%を上回る)

[施策]

- ◆小・中・高等学校を通じた体系的・系統的なキャリア教育の推進や、「ヤング・ジョブ・あいち」等での若者の就労支援
- ◆女性の活躍に取り組む企業の認証や奨励金の支給、女性の再就職支援、理系進路選択の支援
- ◆企業と協力した婚活イベントなど出会いの場の創出
- ◆低年齢児保育の支援、事業所内保育など地域型保育の促進、病児・病後児保育の促進
- ◆放課後児童クラブ設置促進など、放課後児童対策の充実
- ◆イクメン・イクボスの普及、ワーク・ライフ・バランスの推進

等

#### 基本目標⑤ 暮らしの安心を支える環境づくり

年齢や男女、障害の有無や国籍に関わらず、誰もが社会の支え手として活躍できる社会をつくる。

- 健康寿命：全国1位(男75年以上、女80年以上)〔2022年度〕  
(健康寿命と平均寿命の差の半減)
- 労働力率：62.0%  
(高齢化に伴う低下傾向の中で、現状水準を維持)

[施策]

- ◆医師や看護師の育成・確保
- ◆地域包括ケアシステムの県内全域への普及
- ◆キャリアカウンセリングなど高齢者へのきめ細かな就労支援
- ◆特別支援学校での職業教育の充実など障害者の就労支援
- ◆外国人児童生徒の日本語教育など多文化共生の推進
- ◆防災リーダーの育成など地域防災の担い手の確保
- ◆地域課題解決に向けたNPO等多様な主体の連携・協働の促進、プロボノなど県民の地域活動への参加促進

等

#### 基本目標⑥ 活力ある地域づくり

各地域が活力を維持し、県内のバランスある発展を実現する。

- 1人あたりの県民所得：全国平均を25%上回る  
(過去10年間の最高水準を上回り、全国2位を維持)
- 観光客数：三河山間 年間650万人、離島及び周辺 年間1,341万人  
(現状から5%程度の増加をめざす)

[施策]

- ◆三河山間地域、三河湾の島々等の振興
  - ・都市住民との交流や首都圏等からの移住の促進
  - ・「三河の山里サポートデスク」によるなりわいづくりの推進
  - ・地域魅力の発信やモニターツアーの実施など誘客の促進
  - ・農林水産業の振興など雇用の場の創出
- ◆学校給食での県産農林水産物の活用など地産地消の推進
- ◆都市機能の集約や公共交通等のネットワークの充実
- ◆産業、観光、医療分野などICT利活用による地域活性化
- ◆太陽光や小水力発電など再生可能エネルギーの活用

等

### 4. 総合戦略の推進に当たって

多様な主体との連携による地域一体となった施策・事業の推進 / 国の制度・施策の活用による効果的な施策・事業の推進 / 「PDCAサイクル」による総合戦略の進行管理